

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換

「技能伝承フォーラム」実施結果

- 1 日 時 平成28年12月9日（金）13：30～16：40
- 2 場 所 かながわ労働プラザ 3階多目的ホールB
- 3 参加者 70名
- 4 主 催 かながわ技能振興コーナー（神奈川県職業能力開発協会）
- 5 実施内容

（1）基調講演（13：40～14：20）

講 師：荒木M&C技術士事務所代表 荒木 秀 氏

演 題：「ものづくり企業における技能伝承」

概 要：効果的な技能伝承を進めるためには、経営者が将来を展望し、経営目標を立て、実現のために様々な世代の社員との協調により世代間の技能継承や技術革新を推進することが重要である。

その手法として、課題抽出や戦略の基本計画では、3C（顧客、競合他社、自社の戦略決定）& 4P（製品、値付け、順位、人材開発力による戦術決定）を活用し、実施計画策定では、5W2Hを活用することが効果的である。

また、伝承における伝える側の姿勢も大事である。切磋琢磨する企業風土とともに全員が一丸となってゴールを目指すチームワーク等が、ものづくり現場の技能伝承と人材育成のあるべき姿である。

（2）技能伝承事例発表及び意見交換（14：30～16：20）

①ニイガタ株式会社 製販統括部部長 浅野 敏行 氏

現 状：特殊な分野における専門家の不在、基礎知識の不足

課 題：技能伝承等の共有化の必要性、ネットワーク人材の構築

取組み：ものづくりマイスターの指導による知識習得、顧客との綿密なすり合わせ

②株式会社吉岡精工 常務取締役 加藤 誠司 氏

現 状：卓越した技能人材の不足、不具合発生の常態化等

課 題：目標値の数値設定、成果のみえる化、不具合の再発防止等

取組み：検定資格取得の仕組みづくり、社外の情報収集、ものづくりマイスターの指導による知識習得等

③富士工業株式会社 管理本部人財開発グループ課長 斎藤 邦明 氏
 現 状：小集団活動の実施、資格取得奨励、品質管理教育等
 課 題：マンツーマンによるOJTの減少等、効率化の弊害
 取組み：伝承技能の確立、伝承方法の確立、伝承の環境

④市光工業株式会社 人事部人材開発課主事 畠山 正 氏
 現 状：多能工化、目で見て分かる管理表示等
 課 題：データによる標準化の共有
 取組み：常に標準作業、標準管理との比較を行う

(3) コーディネーターによる意見取り纏め (荒木M&C技術士事務所代表 荒木 秀 氏)

- ・ニイガタ株式会社の開発型設計等に対する顧客対応は素晴らしい。
顧客とのすり合わせ型による生産は日本ならではのものである。
- ・吉岡精工発表者の後継者を育成することが急務である。
そのために、職業能力開発協会からの育成に対する支援も必要ではないか。
- ・富士工業はトップ企業として、TPM活動を継続していくなど、人材育成をしっかりとやっている。
- ・市光工業は、繰り返し技術開発を行うとともに、標準化を現場で徹底させていることが、自動車産業における主要企業への一翼を担っている。



荒木M&C技術士事務所代表 荒木氏



基調講演の様子



事例発表及び意見交換の様子



左からニイガタ株式会社 浅野氏、株式会社吉岡精工 加藤氏



左から富士工業株式会社 斎藤氏
市光工業株式会社 畠山氏
荒木M&C技術士事務所代表 荒木氏



会場内の様子